

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193200078		
法人名	特定非営利活動法人 ふるさと		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	北海道上川郡下川町錦町305番地		
自己評価作成日	平成29年6月30日	評価結果市町村受理日	平成29年8月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0193200078-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成29年7月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の安全、安心を第一に思い一日一日を暮らせるよう、また不安もなく過ごせるように、スタッフと共に笑顔の絶えない事業所を目標に、一人一人のできることを引出し、希望に応じた支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

下川町に開設して7年目を迎える、廃園になった幼稚園を利用した改装型の鉄筋平屋造り1ユニット(定員:9名)のグループホームです。
職場環境の改善に努め職員の離職は少なく、安定したケアサービスを提供し、本人・ご家族との馴染みの関係を築き信頼関係を構築していることが伺える。
地域との交流では、下川町主催の非常災害防災訓練への参加や事業所主催の「ふるさと交流会」を毎年開催して、地域の住民や家族、ボランティア等に参加を呼び掛けて地元の人々との交流に取り組むなど地域との交流や連携に努めている。
また、一人ひとりの力やその日の希望に沿って、散歩や買い物、外気浴や畑作業、紅葉狩りなど戸外に出かけられるように支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールに貼り、職員の名札の裏に印刷し管理者、職員共に共有しつなげる努力をしている。	事業所独自の理念をつくり、全ての職員が携帯し、全体会議や日常業務を通じてその理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年ふるさと交流会を開催し地域の人たちとの交流をしつながり大切にしている。	地域との交流では、下川町主催の非常災害防災訓練への参加や事業所主催の「ふるさと交流会」を毎年開催して、地域の住民や家族、ボランティア等に参加を呼び掛けて地域との交流や連携に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流を通じ職員一人一人がインテリ賞の理解、知識などわかりやすくアドバイスしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況報告、今後の取り組みなどアドバイスを頂きサービス向上に生かしている。	定期的に運営推進会議を開催して、日常生活の様子や事業所の取り組み状況などの具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	1か月に一度の地域包括ケア会議に出席し、情報交換している。運営推進会議に出席していただいている。	毎月開催される地域包括ケア会議に参加して、地域のニーズや事業所の取り組み状況等の情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての資料を作成し、内部の研修など職員すべてが理解できるよう徹底している。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止や高齢者虐待防止等の内部研修会を開催して正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の時に資料を作成し高齢者虐待について学び、職員すべてが防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学んだ事を職員が理解している。 ご家族との話し合いもできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際説明をし納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時等意見、要望などを話し合い電話などでもその都度対応している。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように投書箱を設置し、意見や苦情等の申し出先を明示している。また、家族等の来訪が多く、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に一度の全体会議の場で意見を聞いている。	全体会議や日常業務を通じて職員の意見や要望を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境改善に向けキャリアコンサルタントとの面談の機会を設け改善に向け努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に添い月に一度勉強会をおこなっているが外部研修に関しては機会を見つけ参加できるようにしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	交流したいとは考えているが実践には至っていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望やご家族からは現在の状況を聞き取り安心できるように努め信頼関係を築けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安、困っていることなどいつでも連絡していただくよう伝え、傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居初期は心配が大きく本人が必要としている支援について会議の時に利用者一人一人について意見を述べ合っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状況を把握できること(掃除、洗濯物を畳む、食器拭き、片づけ等)を共に行い本人が必要とされている喜びが実感できるよう、快適に暮らすことが出来るよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を面会時などに報告しご家族と共に、どのように本人を支えられるかを考え行動に移すよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室にはなじみの者を持ち込んで頂く。又、友人知人の方には自由に面会に来ていただいています。	町内での食材等の買い物や近隣散歩、地域の行事参加や外食などで馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要以上の介入はしないようにし孤立しないようさりげなくかわりを持つよう努めている。又、利用者同士のトラブルにも気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要に応じ相談にのり対応し支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全員で検討し困難な時は表情などでくみ取り検討している。	一人ひとりの暮らし方の希望や意向の把握に努め、全体会議や日常業務で職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からは詳しく聞き取り、本人からは日常の会話の中から聞き出し把握する様努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の間で情報を共有する様連絡を密にして把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議やモニタリングを通じ検討し実践している。	本人、家族の意見や要望、全体会議やモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員で情報を共有している。介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応しご家族からの相談にも応じ支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、町内会との連携しながら暮らしを楽しむことができるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からのかかりつけ医の受診を受けている。日常の把握を行いながら助言を受け生活をしている。必要な場面ではご家族と共に医師の話を聞いています。	受診は、本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。また、通院への送迎や日常の健康管理等で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は介護添書などで情報提供している。入院中は病棟関係者と連携を保っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	状況、病状に応じ話し合いは行っている。職員とも情報の共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署との連携を行っており救命救急講習(AEDも含む)など今後も定期的に行うよう努めてまいります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下年に2回避難訓練を行っています。災害時の避難についても参加する予定です。	救急救命講習やAEDの使用方法について受講している。また、消防署の協力を得た年2回の火災避難訓練や町主催の非常災害防災訓練参加などで緊急時に対応ができるよう取り組んでいる。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助の際は戸を閉めるなど配慮している。声掛けなどにも今後も努めてまいります。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	解りやすいように説明して少しでも意思決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者を中心に考え十分な話し合いのもと支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院、美容室など事業所で交流しながら出張していただいている。髭剃り、毛染めなど必要に応じ事業所に対応できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の皮むき、料理の下ごしらえ、食器の片づけなど職員と共に行っている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、芋の皮むきや調理の準備、食器洗いや食器拭き等を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士は配置していないができる限り多くの種類の食材を摂取できるように工夫して提供している。食事の量や水分量についても記録に残し、体重の増減にも気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けは怠らず必要に応じ介助している。自分でできる利用者は見守りを行う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間はポータブルトイレを使用できる利用者には設置し自立を支援している。時間を見計らい声掛けも行い誘導している。清潔にも配慮し排泄後にはコールなどで知らせてもらい介助している。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、声掛けや誘導等でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、水分摂取量、などにも配慮し又ヨーグルト、野菜中心のお総菜などを提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は決めているが強制ではなく本人の希望も聞きながら行っている。	一人ひとりの希望やタイミングに応じて週2回を目安に入浴支援をしている。また、拒否の強い本人にも柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせ室温、湿度、音楽をかけるなど環境調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が把握しており、受診時の指示、服薬の変更など情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意なことや楽しみごとについても援助できるように努力している。レクリエーションなどにも参加していただき気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の身体状況に合わせ体調を考慮しながら近隣に散歩に出かける。希望によっては買い物にも同行する。	一人ひとりの力やその日の希望に沿って、散歩や買い物、外気浴や畑作業、紅葉狩りなど戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者はお金を所持しており一緒に買い物にも出かけているが、必ずご家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があればいつでも家族の方とお話できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着けるよう環境づくりに配慮している。又、季節感のある空間などを工夫している。	共用空間には、季節ごとの飾りつけ等で生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は自由な場所でくつろげるように思い思いの場所で過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら安全に配慮し、できるだけなじみの品を置いている。	居室には、使い慣れた家具や日用品等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必用に応じ手摺などを増やし安全に移動できるよう配慮し、見守っている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ふるさと

作成日: 平成 29年 7月 31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	3	地域の人々がグループホームに気軽に立ち寄れるよう貢献していきたい。	サロンの存在にしていきたい。	・地域に向けて広報していく。 ・気軽に立ち寄れるように地域に発信していく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。